JDC

新型コロナウイルス感染症対策

競技会開催ガイドラインについて

令和２年５月２８日

公益社団法人　日本ダンス議会

はじめに

5 月 25 日に新型コロナウイルス感染症対策本部が開催され、「新型インフルエンザ等緊急事態解除宣言」が行われるとともに、新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針が改正されました。

それによりますと、解除後は一定の移行期間を設け、感染拡大を予防する「新しい生活様式」の定着や、業種ごとに策定される感染拡大予防ガイドライン等の実践を前提に、外出の自粛や施設の使用制限の要請等を緩和しつつ、段階的に社会経済の活動レベルを引き上げていくこととしています。

移行期間については 5 月 25 日から 7 月 31 日までの約 2 か月間（感染状況で延長もあり得る。）とし、移行期間中において、外出の自粛、イベント等の開催制限、施設の使用制限の要請等について、6 月 1 日、6 月 19 日、7 月 10 日から、それぞれ段階的に緩和していくということです。

JDC 主催競技会は、この約 2 か月の移行期間内に開催は予定しておりませんが、その間に他業種のイベント状況（ガイドラインに沿った開催方法等）を注視しながら、8 月以降の競技会開催に向けて徹底した予防対策を練り実施していく所存です。その基準となる「JDC 競技会開催ガイドライン」を作成いたしました。本ガイドラインを厳守の上、競技会開催に向けて、皆様の徹底した感染拡大予防対策へのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

公益社団法人日本ダンス議会
会長　　楠　潤一郎

新型コロナウイルス感染症の特徴

- 一般的な状況における感染経路の中心は飛沫感染及び接触感染であるが、閉鎖空間において近距離で多くの人と会話する等の一定の環境下であれば、咳やくしゃみ等の症状がなくても感染を拡大させるリスクがあるとされている。また、発症前２日の者や無症候の者からの感染の可能性も指摘されている。一方、人と人との距離を確保することにより、大幅に感染リスクが下がるとされている。

- 集団感染が生じた場の共通点を踏まえると、特に　①密閉空間（換気の悪い密閉空間である）　、②密集場所（多くの人が密集している）　、③　密接場面（互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や発声が行われる）、という３つの条件（三密）のある場では、感染を拡大させるリスクが高いと考えられる。また、これ以外の場であっても、人混みや近距離での会話、特に大きな声を出すことや歌うことにはリスクが存在すると考えられる。激しい呼気や大きな声を伴う運動についても感染リスクがある可能性が指摘されている。

競技会を開催するために必要な条件

①換気

・競技フロアー、選手及び役員控室に十分な広さがあり、換気の確保が出来ている。

②体温測定・消毒・マスクの着用

・観客、選手、役員、来賓、業者等の来場者全員の体温チェックを行う準備が出来ている。

・消毒液（アルコール、次亜塩素酸水等）の準備が整っている。

・事前に来場予定者全員にマスク着用のアナウンスがされている。

③身体的距離の確保

・観客席に横 1 メートル、前後 2 メートルを目安にスペースを確保することが出来る。もしくは無観客。

・選手が出場を待つ際、ソーシャルディスタンスの確保が可能なスペースが用意されている。

・曲間に十分な時間を取り、選手入退場時に一定の間隔が確保できる様な進行が組まれている。

・各ヒートで踊る組数を通常の 2～3 割程度少ない状態で、タイムテーブルが組まれている。

・選手や観客が密集しないように導線の確保や待機状況を管理する役員が確保されている。

・常に会場内、控室内での「三密」（密閉・密集・密接）回避状況を管理する役員が確保されている。

競技会当日に必要な感染予防対策

● 受付

・選手受付、一般受付、役員控室等に手指用消毒液を設置し、消毒の協力を呼び掛ける。
・受付（選手、一般）に並ぶ際、前後 2 メートル程度の間隔が保てるような案内、誘導をする。
・受付担当者と来場者との間隔は 1 メートル程度確保し、直接触れ合うことを極力避ける。
もしくは、飛沫防止シートの設置や、フェイスシールドを装着する。
・観客、選手、役員等、来場者全員の体温チェック（37.5 度以内）、及び連絡先の把握。

● 役員・審査員

・役員、審査員はフロアーや控室においても必ずマスクを着用し、食事の際、大声での会話は控える。

● 司会

・司会はマスク着用とこまめな手洗いのアナウンスを行い、選手への声援は拍手のみでお願いする。
・競技会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、速やかに濃厚接触者の有無等について主催者に報告することを告知する。（当日アナウンス以外にも、大会要項、プログラム等で告知する。）

● 会場レイアウト

・選手控室は選手同士の間隔を 1 メートル程度確保出来るようなレイアウトにする。
・採点表を貼り出すと選手が密集する為、選手控室にて背番号を読み上げるなどの工夫をする。
・各所に集団感染を防ぐ貼り紙（マスク着用、密集厳禁、大声での会話厳禁等）を掲示する。
・立見席はソーシャルディスタンスを保てるよう、立ち位置に印を付ける等の処置をする。又は立見席を設定しない。

競技会終了後の対応

・万が一感染の報告を受けた際の対応について、開催自治体の衛生部局とあらかじめ検討しておく。

・参加者全員の氏名・連絡先リストについては、後日感染が発生した場合に備え、個人情報の取扱いに十分注意しながら、最低１か月は保管しておく。